土木学会出版物の大学図書館等における収蔵状況について

北海道教育大学教育学部　正会員　今　尚之

１．　はじめに

学術研究の成果の公開は，出版の形態をとるのが多い。近年は，電子書籍，電子ジャーナルなど，ICT技術の活用が進展しているが，図書，雑誌形態での流通もまだ見られる。土木学会では学術論文の電子化が進んでいるが，学術図書に関しては従来の紙媒体による出版が続いている。

紙媒体，電子媒体何れにしても，そこに書かれた研究成果が読者に届かなくてはならない。出版者（著者）の思いはそこに強く存在する。ランガナタンによる「図書館学の５法則」のなかに「すべての資料をその読者に」というものがある。世の中に問われたすべての図書（資料）は，必ず利用されるように，図書館は創意工夫を行い，一度も開かれない資料が存在しないようにすることが必要であると述べたものである。

土木学会の研究活動成果をもとにした出版物が，その内容を必要とする読者に届くためには，学会誌などによる広報宣伝のみならず，図書館等に蔵書され，研究，教育において活用されることも望まれる。そのことは，土木学会の成果を広く社会に提供することと同時に，例えば，蔵書が活用されることで学生に土木学会の存在を伝える機会ともなりうる。

このような観点から，土木学会出版物（図書）の大学図書館における蔵書状況を調査し，現状を把握することから，土木学会が生み出した「知」の流通と提供，利用を考える手がかりとしたい。

２．土木学会出版物

土木学会では「土木に関する知識を広く一般に広め、土木工学および土木技術の進展に寄与することを目的（土木学会出版規程　第２条）」として，1)一般刊行物（示方書、基準、指針、啓発書等），2)土木学会誌，3)土木学会論文集，4)年次学術講演会概要集　講習会テキスト類（委員会報告書等を含む）の出版活動を行っている。

土木学会出版物は，各種委員会等から出版企画が挙げられ，出版委員会幹事会での企画者説明と審議を経て，出版委員会での審議後，理事会において承認される流れとなっている。

３．大学図書館等の所蔵調査

（１）対象出版物

今回，土木学会の出版物のなかでも，示方書，基準，指針，専門書，教科書，啓発書など，一般刊行物に分類されているもので，2010（平成22）年１月から2014年12月までの５カ年間に出版されたものを対象とした。表１は，土木学会出版委員会のサイトで公表されている，2010（平成22）年～2014年にかけて出版された一般刊行物について集計したものである。改訂再版なども含まれているが，この間91点が刊行されている。

表１　土木学会・一般刊行物刊行点数（2010～2014）

年	2010	2011	2012	2013	2014	合計
刊行点数	11	12	16	23	29	91

出版年により出版点数に差が見られる。この間，示方書の改定，東日本大震災，土木学会百周年などがあり，刊行物は示方書や報告書，専門書から啓発用図書までと幅広い領域が対象となっている。ただし，日本図書コード管理センターによるCコードでは販売対象には「専門」が付けられている。

（２）調査対象とした蔵書データベース

蔵書状況調査では，国立情報学研究所が提供する蔵書データベースである”CiNii Books”を利用した。

“CiNii Books”とは，国立情報学研究所が運用する目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に蓄積されてきた，全国の大学図書館等の所蔵情報を統合（2014年度末で1,263機関が。126,317,769冊が登録）し，一般の利用者に向け，公開利用を提供しているシステムである。そのことから国内の大学図書館等の蔵書を網羅していると判断し，調査データとして利用した。ただし，一部の図書において，”CiNii Books”のデータと土木学会出版委員会が提供する出版リストデータとは必ずしも一致していない。

キーワード　大学図書館等，蔵書分析，土木学会出版物
連絡先　〒002-8502　札幌市北区あいの里５条３丁目　北海道教育大学札幌校　今　尚之　kon.naoyuki@s.hokkyodai.ac.jp

４．土木学会刊行物の分析

（１）一般刊行物の蔵書館数

”CiNii Books”により，調査対象とした2010（平成22）年１月～2014年12月の５年間に発行された一般刊行物は，76点が大学図書館等に収蔵されていることがわかった。また，１点以上所蔵しているは262館であった。表２に所蔵館数が多い（上位20点）の書名を示す。このうち所蔵館数が最も多かったものは，東日本大震災合同調査報告書編集委員会による「東日本大震災合同調査報告　共通編2　津波の特性と被害」で，92館に所蔵されている。この期間では震災関係や防災に等につながる技術書が多い。また示方書や百周年記念出版も上位20点に見られる。

表２　所蔵館数順書名リスト（上位20点）

年	書名	館数
2014	津波の特性と被害	92
2013	東日本大震災：3.11あの日を忘れないでほしい	85
2011	実務に役立つ耐震設計入門	73
2013	コンクリート標準示方書：2012年制定	69
2013	コンクリート標準示方書：2013年制定	61
2010	交通社会資本制度：仕組と課題	59
2014	日本が世界に誇るコンクリート技術	58
2014	原子力施設の被害とその影響	57
2012	日本のかわと河川技術を知る：利根川	54
2012	交通ネットワークを支える免震と制震の技術	52
2010	コンクリート標準示方書：2010年制定	51
2013	継続は力なり：女性土木技術者のためのキャリアガイド	49
2012	基礎からわかる複合構造	48
2014	災害廃棄物の処分と有効利用	42
2010	沖野忠雄と明治改修	41
2014	行動する技術者たち	41
2014	100 年橋梁　A Hundred Year Old Bridges　～100年を生き続けた橋の歴史と物語～	40
2012	数値波動水槽：砕波波浪計算の深化と耐波設計の革新を目指して	39
2012	舗装工学の基礎	39
2013	巨大地震に対する複合構造物の課題と可能性	37

（２）土木学会出版物の蔵書傾向

土木学会の一般刊行物を所蔵点数が最も多かったのは「神戸大学　附属図書館　自然科学系図書館」で，46点であった。表３に上位10館を示す。このうち，秋田県立大学は，全国土木系教員名簿［大学・短大・高専］によると土木系教員の氏名は掲載されていない。

なお，所蔵点数が１点という大学図書館等は92館であり，８点未満は189館と全体の72%であった。研究や教育のためのコレクションとして土木学会の出版物が集められているよりも，出版物の主題により選書されているものと考えられる。

表３　所蔵点数の多い大学図書館等

館名	点数	100周年
神戸大学 附属図書館 自然科学系図書館	46	64%
東海大学 付属図書館	44	64%
中部大学 附属三浦記念図書館	40	91%
名古屋大学 工学 図書室	40	91%
芝浦工業大学 豊洲図書館	36	55%
立命館大学 図書館	36	55%
秋田県立大学 本荘キャンパス 図書・情報センター	35	36%
東洋大学 附属図書館 川越図書館	35	64%
大同大学 図書館	31	91%
長岡技術科学大学 附属図書館	31	91%
北見工業大学 図書館	31	45%

（３）100周年記念出版物の収蔵状況

100周年記念出版物（一般刊行物で委託出版を除く）を収蔵している館数を表４に示す。記念出版物は土木学会の研究成果のみならず，その活動なども幅広く周知することが目的の一つとされており，幅広く収蔵され，提供されることが期待されている。表４を見るとCiNiiに参加し，土木学会の一般刊行物を１点以上蔵書している262館が所蔵する割合は，最も高くて22%であった。また，およそ１割の26館が100周年記念出版物のみを蔵書しており，土木工学分野以外への広がりが見られた。

表４　百周年記念出版物の収蔵館数と262館に対する割合

書名	館数	割合
日本が世界に誇るコンクリート技術	58	22%
継続は力なり：女性土木技術者のためのキャリアガイド	46	18%
行動する技術者たち	41	16%
100年橋梁	40	15%
土木コレクションHANDS+EYES	36	14%
土木學會の100年	31	12%
インフラ・まちづくりとシビルNPO	28	11%
フロンティアに挑む技術	28	11%
東海道新幹線と首都高：50+50	27	10%
大河津分水可動堰	24	9%
技術者の自立・技術の独立を求めて	23	9%

５．今後の課題

土木学会の出版物は専門性が高いものがほとんどであることから，各館の選書方法や土木学会出版物の位置付け調査が必要であろう。さらに，レファレンスにおいてどのように紹介，利用されているかなどの調査も，レファレンス協同データベースが充実しつつある現在，土木学会が生み出した「知」の流通とその活用を考察する上で必要であろう。